

都道府県別賞一等

未来のために……

埼玉県 松伏町立松伏中学校 三学年

横川 詩恵

五年前、祖母が肺腺ガンの手術をしました。今、脳に転移してしまったガンを抗ガン剤で治療しています。

「おばあちゃん転移しちゃったって……。これからまた、検査や入院でお金が必要ね。」

父と母のそんな会話が聞こえてきました。手術後の経過もよかったのですが、ふつうの暮らしを取り戻せてよかったと感じていました。しかし、繰り返し抗ガン剤の治療を受けている影響なのか、徐々に体力も落ちているようで、だいぶ小さく弱い存在に見え、ちょっとさみしい気持ちです。

手術が無事に終わり、祖母の容体も安定してきたころ、ふと気になって、「ガンの治療や手術って、すごくお金がかかっているんじゃないの？」と母に聞いてみたことがあります。

「高齢者って医療費が安い。おばあちゃんは七十八歳で、生命保険にも入っているみたいだから大丈夫よ。」

と返事が返ってきました。何十万円、何百万円というお金がかかるのだとばかり思っていた私は少し驚き、それと同時に安心したことを覚えています。

けれど、困ったことに祖母は自分の入っている保険の種類や保険金の額を詳しく覚えていない様子だったので。

「○○生命のと、○○保険のと、保険証券はどこにしまったかな……。」

保険の内容が詳しく書かれている保険証券の保管場所もどこだっただろう、といった状態でした。せっかく入って、何年も払い続けてきた生命保険にもかかわらず。毎月の支払いはそれほど多くなかったとしても、毎月毎月……と何年も経てば、ちりも積もれば山となり、かなりの額になっているはずですよ。

幸い覚えていた保険会社の名前を頼りに問い合わせをし、保険証券の再発行や給付の手続きを進めることができました。

内容も詳しく把握しないまま、勧められるがままに加入していたという祖母の生命保険は「ガンの入院や治療」に手厚い保障ではありませんでした。それでも入院費用分の給付があって、ずいぶん助かったようでした。

それと同時に、

「もつと違う種類の保険だったらもつともらえていたかな。」

と、祖母は言いました。祖母の生命保険騒動をきっかけに、父や母は自分たちの

第54回中学生作文コンクール

保険がライフスタイルや現状に適している保険なのか、見直すことにしました。

父は、万が一亡くなると育ちざかりの子どもがいるので、死亡保障が手厚い保険が適しているらしく、今の保険のまま。母は、貯蓄もできて入院初日から保障されるが、掛け金は少額タイプのものに。最初は、

「生命保険は商品の数が多くてなにがなんだかわからない。」

と言っていた父も母も、窓口の人と話したり比較検討していくうちに、この先の人生を見つめているようでした。時折話を聞いていた私も勉強になりました。人まかせにするのではなく、今の自分をしっかりと見つめて、そして、これからどんな風に生きていきたいかをきちんと考えてみるのが大切だと思いました。

私はどんな保険に入っているのだろうと思い、両親に聞いてみました。父が万が一亡くなった場合、十八歳まで毎月もらえる保険。自転車保険。学校でのケガなどで支払われるスポーツ保険。中学校を卒業するまでは、町の医療費助成制度があるから、私は病気関係の保険には入っていないことも知りました。高校生になるとときには、両親とともに見直しをしたいと思います。

人生、なにが起こるか誰にもわかりません。だから、万が一のときに金銭面でサポートしてくれる保険は、人生の心強いパートナーだと思います。ときに見直しをしながら暮らしていきたいと思います。